



チビッコ・アイスホッケー 中学の部で全日光が優勝

全国選抜大会

全国選抜チビッコ交歓アイスホッケー大会が、一月十五・十六の二日間、札幌市月寒体育館で行われました。
中学の部では、全日光が強豪北海道勢を相手に勝ち進み、決勝戦中学生の決勝戦

では全苫小牧を三―一で破り見事優勝、実力日本一になりました。
小学の部は、北海道勢に惜しくも敗れましたが、全八戸には九―二の大差で勝ち、三位を確保しました。

日本学生 氷上競技 選手権大会

日光市での開催は、通算で十二回。連続五年目という、第四十九回日本学生氷上競技選手権大会(インカレ)が、一月四日から八日まで、日光スケートセンターを中心に開催されました。参加した大学は四十八校で、約千人の選手が技を競い盛会でした。

大会は、総裁として、すっかりおなじみになった、三笠宮寛仁殿下をお迎えして行われ、新年早々の日光を活気づけました。写真競技(5) ご観戦中の寛仁殿下(6)



市史編さん室だより

明治からのあゆみ

明治35年⇨39年

- ①⑨ 中宮祠漁業組合解散(明治35年)
明治19年に、湖魚の保護・人工ふ化・放流事業を目的に組織された中宮祠漁業組合が、明治35年に発布された漁業法(公有水面以外の漁業組合は認めない)により、中禅寺湖が御料水面であったため解散した。しかし、地元民の希望で、明治40年、宮内省の日光中禅寺湖漁業取締規則によって、五十二名の町民が、漁業者として認められた。
- ①⑩ 中禅寺湖にマス放流(明治35年)
中禅寺湖畔の別荘に滞在していた英国公使のマクドナルドと同領事館員パーレットは、米国コロラド州から、川マスの卵三万七千粒を輸入し、このうち二万粒のふ化に成功して、湯川と中禅寺湖に放流した。日光地方で、川マスをパーレットと呼ぶのは、このパーレットからとった名である。
- ①⑪ 藤村操、投身自殺(明治36年5月)
旧制第一高等学校の生徒、藤村操(18才)が、華厳ノ滝の落口近くの大木に「巖頭之感」と題した一文を彫り残して、投身自殺した。この一文は、自殺を美化させるものとして、当時の社会に大きな波紋を与えた。後年、警察では、自殺者増加の傾向に対処するため、大木の文字を削り取った。
- ①⑫ 別倉発電所の建設着手(明治36年7月)
日光精銅所の開所前に、同所の銅の電気精錬工場と銅線製造工場を建設のため、レンガ造りの発電所を建設した。送電開始は、明治38年4月である。



華厳ノ滝